絢爛

御中 2A

災害は突然に・・・

台風10号　清水町でも被害が

私たちの防災意識 あらためて考える

【今年四月、熊本で大きな地震が起こった。日本で大きな震災が続いていることから、私たちは災害への意識について記事を書くことにした。そんな中、私たちの住む清水町で大きな災害が起きてしまった。】

清水町でも

大型で強い台風10号は、関東地方の海上で発生した。台風はそのまま南下していたが、沖縄あたりで急にUターンしてきた。30日午後六時頃に、岩手県大船渡市付近に上陸した。台風の猛威は、北海道にも影響を与えた。台風は温帯低気圧に変わったが、北海道で記録的な大雨となった。

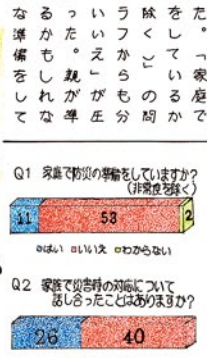
私たちの住む清水町でも川の氾濫が相次ぎ、道路が崩れたり線路が中ぶらりになったり、役場がある街中にも水が流れ、広い範囲で浸水するなどの大きな被害が出た。御影地区でも避難勧告が出た。国道38号線は通行止めとなり、清水町方面にも芽室町方面にも行くことができず、陸の孤島と化してしまった。本校でも、避難所に避難した生徒がおり、御影全域で電話などの通信網が遮断され、学校も臨時休校になった。

この記事を企画した時は、遠い熊本についてではなく、テレビで映像を見ても、大変だなぁと思う程度で他人事のように思っていた。まさか自分の住む町で、こんな風に被害を目の当たりにするとは、想像もしていなかった。

私たちの意識

この台風10号による災害が起こる前に、私たちは全校生徒に防災意識を調査するためにアンケートをとった。「家庭で防災の準備をしているか（非常食を除く）」の問いでは、グラフからも分かる通り「いいえ」が圧倒的に多かった。親が準備をしているかもしれないが、どんな準備をしているかを知らない人が多いことや自然災害は自分たちと関係ないものと思っていた人が多いことが分かる。

また、「災害時の対応について家族で話し合ったことがあるか」の問いでも「いいえ」が多かった。これらのことから、この台風10号による災害が起こる前の私たちの防災意識はとても低かったことが分かる。



意識の変化

災害が自分たちの住む清水町で起こったことで、私たちの防災意識は変わった。それを実感したのは先日地震が起きたときのことだ。これまでは注意されることが多かったが、先生が指示を出した瞬間に、クラス全員がパッと机の下に隠れて身の安全を守ろうと行動した。このような行動を私たちは見習うべきだ。

この災害に直面したことで、心に傷を負った方も少なくない。しかし、家族での話合いや防災準備の大切さなど、多くのことを学べたのではないだろうか。

夢への挑戦

～アメリカで学んだ事・言葉の壁～

私には夢がある。それはアイスホッケーでNHLに行くことだ。NHLとは北米のプロリーグで、人気、実力ともに世界最高峰のリーグだ。日本人では今まで一人しか行ったことがない。しかも、ポジションはキーパーで、数試合しか試合に出れず日本に戻ってきている。だから、私はプレイヤーとしてNHLで活躍できる選手になりたい。それが私の夢だ。

この夏、その夢を叶えるチャンスが巡ってきた。USHL（二十二歳以下のトップリーグ）のキャンプから招待されたのだ。日本人がこのキャンプに参加するのは初のことらしい。自分の人生を変える大きなチャンスと思った私は、本場のアイスホッケーに触れたい一心で現地に向かった。

到着してからも、通訳の方がいたので、生活面では不便なこともなく過ごすことができた。"なんとかなる"と思った。しかし、そんな考えが甘かったとすぐに気付かされた。リンクでは、全て自分の責任で行動しなければならない。控室でもどうしてよいか分からず、バッグと睨めっこするしかなかった。声をかけてきてくれた選手もいたが、ほとんどの質問に答えることができなかった。それがすごく悔しくて胸が苦しくなった。言葉の壁をなくしたい・強く思った瞬間だ。

プレーの面では技術面でアピールできたが、試合では素快なチェックを受けて、脳震盪で病院に運ばれてしまった。病院に運ばれた私は、この夢を追い続けていいかと悩んだ。そして、そんな気持ちのまま帰国した。

しばらくして、結果が送られてきた。自分が思っていた以上の評価だったので、なんとか自信を取り戻すことができた。

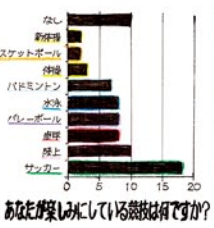
今回の経験で、世界との差が明確に見え、言葉の壁などの課題も分かった。結局、全ては自分自身の努力にかかっているのだ。これから先も、落ち込んだり悩んだりするだろう。しかし、自分の夢への挑戦は絶対に終わらすつもりはない。

リオからのバトン

～東京五輪に向けて～

皆さんの中にもこの夏に行われたリオオリンピックを覚になった方は多いのではないだろうか。寝不足になりながらも連日の日本人の活躍に勇気をもらったことだろう。今回、日本選手団は過去最多の四十一個ものメダルを獲得した。

オリンピック前に、本校の生徒がどの競技を楽しみにしているのかのアンケートとった。「楽しみにしている競技」を集計した結果、本校の部活動にもあるバドミントンや卓球、陸上などの競技が多かった。今回、これらの種目では、史上最高のメダル獲得が相次ぎ、とても盛り上がった。きっと、本校の選手たちにも刺激になったことだろう。これからの本校の部活動の活躍にも期待したい。



Q. あなたが楽しみにしている競技は何ですか？

さて、いよいよ四年後には、リオからのバトンを受けて、東京オリンピックが開催される。日本各地で、四年後に向けて様々な活動が動き始めている。

例えば、私たちの住む北海道でも「北のTOPプロジェクト」を実施し、オリンピックとの相乗効果を狙った取り組みが進んでいる。スポーツ王国北海道の実現やオリンピック前の合宿誘致、またオリンピックで訪れる外国人の北海道への観光誘致などである。十勝でも帯広市や士幌町、新得町が合宿誘致を希望していて、外国人観光客の受け入れ態勢の整備も進められている。四年後に向けていろいろな取り組みが進められていることが分かった。

このように開催地の東京だけではなく、全国各地で盛り上がりを見せている。だから、四年後の東京オリンピックは日本にとって多くのことを得られる素晴らしいものになるに違いない。

飲んだら乗るな

大きな社会問題である飲酒運転。全国各地で痛ましい事故が起きている中、今年も十勝管内で警察官や教職員による飲酒運転が発覚した。

飲酒運転により引き起こされる事故は、被害者はもちろん、親族や周りの人たちも巻き込むことになり、あってはいけないことだ。だから、絶対にゼロを目指していかなければならない。

飲酒運転を無くすための対策として、飲食店でのポスターや呼びかけ、代行タクシーなども増えた。また、全国で根絶のための取り組みも進んでいる。北海道でもカードやステッカー、パンフレットの配布など様々な機会を通して、道民に広く広報活動を行っている。

平成十五年には、対策が進んでおらず、全国で年間七八一件あった飲酒運転による死亡事故が、平成二十六年には二一七件まで減ってきている。これらの対策によって、人々の意識が高まってきたと考えられる。

ただ、まだまだ意識が低い人がいることも事実である。だから、根絶を目指すためにも、これらの対策を続けていくことが大切だ。

では、そのために私たち中学生にできることはなんだろう。家族などの身近な人に飲酒運転の恐ろしさを伝え、根絶への活動に協力する機会があれば積極的に参加することが大切ではないだろうか。そしてなにより、大人になっても「飲んだら乗るな」を絶対に忘れることなく、教訓として意識し続けることである。

中学生という今の時点で、飲酒運転の恐ろしさを知っておくことはとても大切だ。

アイスホッケー部　全十勝D

全国制覇

～連覇に向けて～

御影中・芽室中・屈足中の三校で構成されているアイスホッケー部全十勝Dは、全道、全国優勝という偉業を成し遂げた。

昨年十二月、苫小牧市で開催された全道大会で優勝した。一月の群馬県伊香保市で開催された全国大会では、初戦は自分たちのホッケーができずに苦戦したが、その後の準々決勝、準決勝と勝利し、決勝にコマを進めた。決勝では、自分たちの力をしっかりと出し切り、8対3という大差で勝利することができた。

この全国制覇について、監督の高橋監督は、「選手がコーチの指示をしっかりと聞いて、一生懸命プレーした結果」と勝因を語っていた。

全国制覇という目標を達成した全十勝Dは、また新たな目標に向かって始動した。それは全国二連覇。

今年のチームの構成は、昨年と違い、屈足中の選手がいなくなり、新たに清水中が加わった。選手人数も十五人から十九人に増え、更に戦力を増している。練習もハードだ。五月からほぼ毎日十キロ以上走り、体幹トレーニングや素振り、雨の日にはバイクトレーニングなどといった辛い陸トレ、七月からは氷上練習を頑張っている。昨年は二つの十勝大会のタイトルを逃しているが、今年は全タイトルを取ることを目指している。

もう一度、全国制覇をするには、まず全道優勝をして切符を手にする必要がある。全国二連覇について高橋監督は、「三年生だけではなく、二年生がどれだけ頑張れるかがカギ」と話していた。日頃から御影アイスアリーナを使わせていただいている最高の環境や先輩方から受け継いだ誇り、周りの人たちへの感謝の気持ちを大切にして、ぜひ全国二連覇を成し遂げてほしい。

Enjoy English

▼英語のALTとしてたくさんお世話になったアシュリー先生。今年の夏に契約を終えて、一学期の終業式でアメリカに帰国した。▼小学生の頃から英語を教えてもらい、アシュリー先生のおかげで英語が好きになったり、得意になった人は多いのではないだろうか。▼ピンゴなどゲーム感覚で楽しめるものを取り入れ、本当に楽しい授業ばかりで思い出もたくさんできた。▼分からない単語や課題にも、ヒントをくれたり覚えやすい方法を教えてくれたりと格好よくとても頼しみやすい一面もあった。▼二学期の始まりと同時に、新しいALTエリックが来てくれた。とてもユニークな先生だ。▼エリック先生は、映画やプラモデル作りが趣味で、近くの山々にハイキングしたいそうだ。▼御影中学校に来て頑張りたいことを尋ねると、「早くみんなと仲良くなって、英語の授業を楽しみたい」とさわやかに答えてくれた。▼ALTの先生がいてくれるおかげで、本場の英語に触れることができ授業がとても分かりやすい。▼アシュリー先生が教えてくれたことを活かし、これからエリック先生と一緒に、英語がもっと得意になるように楽しく授業に取り組んでいきたい。

編集後記

「絢爛」という題名にした理由は、言葉の意味のように、この壁新聞を豪華で綺麗に仕上げたいという思いからだ。今年は台風10号の影響で学校が3日間休みになったりと大変なことがあった。そんな中でも、みんなが力を合わせて助け合いながら完成させることができた。協力してくださった皆様、ありがとうございました。

STAFF

榛澤　寧々・五十嵐唯翔
長岡　禾桜・沼田　陸
青木　優香・山本　涼